

用語解説集

【ア】 アクティブ運用

目標とする基準(ベンチマーク)を上回る成績を目指す運用手法。

アセット・アロケーション

資産配分のこと。

インデックス(特別勘定の指数)

各特別勘定の資産の積立金の口数1口あたりの価額のことをいい、特別勘定資産の評価を反映して毎日計算し、特別勘定資産の単位あたりの増減を表すもの。

オーバーウェイト

資産配分を決定する際に、特定の投資対象への配分比率を基準となる比率より大きくすること。(逆)アンダーウェイト

【カ】 格付

発行体や債券の信用力の程度を示す指標。

為替ヘッジ

外貨建て資産に投資するファンドにおいて、主に為替変動リスクを回避すること。

為替リスク

為替レートの変動により、外貨建て資産の円換算での価値が変動すること。

基準価額

純資産額を口数で割って算出した一口当たりの純資産額のこと。いわば投資信託の値段。

キャピタルゲイン

有価証券の投資元本の値上がり利益のこと。

金利変動リスク

金利の変動により、債券の価格が変動すること。一般に

- ・金利の上昇＝債券価格の下落
- ・金利の下落＝債券価格の上昇 となる。

グロース

将来的に成長が見込まれること。

【サ】 信用リスク

有価証券(株、債券等)の発行体の財務状況の変化により、有価証券の価格が変動すること。

【タ】 定性評価

運用機関の安定性や運用哲学、運用担当者の資質など数値化できない側面から投資の質を評価すること。

定量評価

過去の運用実績の推移など、各種数値化できる側面から投資の質を評価すること。

【チ】 デュレーション

金利の変動に対する債券価格の変動度合い。また、投資元本の平均回収年限のこと。

- ・デュレーションが長い
＝金利変動リスクが相対的に大きい
- ・デュレーションが短い
＝金利変動リスクが相対的に小さい

投資信託(ファンド)

投資家から集められた資金を運用会社が運用し、その結果を拠出額に応じて投資家に還元するもの。リスクもリターンも投資家に帰属する。

特別勘定

変額(年金)保険にかかる資産の管理運用を行うもの。定額保険にかかる資産の管理・運用をする一般勘定とは明確に区別される。

トップダウンアプローチ

マクロ経済や市場動向から、徐々に細かい事象を調査・分析し、魅力的な投資先を徐々に絞り込んでポートフォリオを構築する手法。

【ハ】 パッシブ運用

目標とする基準(ベンチマーク)の動きに沿った成績を目指す運用手法。

バリュエーション

割安であること。

ファンダメンタルズ

経済の基礎的条件。一国の経済状況。

ベンチマーク

運用実績の評価をする際に対象となる指標。複数の投資信託を評価する際など、相対的な優劣を判断するために用いる。
例)東証株価指数(TOPIX)、MSCIコクサイ指数等

ポートフォリオ

投資信託が保有する資産の構成内容のこと。

ポートフォリオマネージャー

投資信託の運用担当者のこと。

ボトムアップアプローチ

個別企業について綿密な調査分析を行い、投資妙味がある銘柄を探し出してポートフォリオを構築する手法。

【マ】 マクロ経済

国(政府・企業・家計)を単位として見た経済の動き。